

- 1 派遣期日 令和元年10月26日(土)
- 2 研修先 ニュースパーク (日本新聞博物館)
所在地 〒231-8311 神奈川県横浜市中区日本大通 11 横浜情報文化センター
<https://newspark.jp/>
研修主催 公益社団法人全国学校図書館協議会 (<https://www.j-sla.or.jp/>)

3 研修内容

(1) 全国学校図書館協議会, ニュースパークについて

研究のテーマ: 学校図書館・授業での新聞活用

公益社団法人全国学校図書館協議会(全国SLA)では、各都道府県の学校図書館協議会と連携し、学校図書館の充実発展と青少年読書の振興を図るための活動を行っている。具体的には「学校図書館充実運動」「研究・研修活動」「図書を選定事業」「読書の推進活動」「調査活動」「顕彰・表彰事業」などの活動である。日南市学校図書館教育専門部の調査研究としてこの全国学校図書館協議会主催の学校図書館実践講座の研究会を選定し、参加してきた。各地で多様なテーマについての研究・研修活動が行われているが、今回は神奈川県ニュースパーク(日本新聞博物館)で「学校図書館・授業でのメディア活用」について学んだ。

① ニュースパーク(日本新聞博物館)概要

日刊新聞発祥の地・横浜で日本新聞協会が運営する情報と新聞の博物館として2000年に開館。情報社会と新聞・ジャーナリズムの役割について発信している。

② 展示・プログラム

ア 展示

- ・新聞のあゆみ
- ・情報社会と新聞
- ・新聞を知ろう

イ プログラム

- ・展示解説
- ・横浜タイムトラベル
- ・オリジナル新聞づくり
- ・新聞レクチャー
- ・取材クルーズ
- ・学習キットの貸し出し



ニュースパーク入り口



新聞の歴史についての展示

③ NIE (Newspaper in Education)

NIEとは、1930年代アメリカで始まった。日本では1985年に提唱された教育に新聞を教材として活用する教育運動を示す。現在80か国以上で実施され、多くの国で「民主主義を支え、よりよい市民を作る」と考えられている。日本でも、各都道府県内にNIE推進協議会があり、活動の拠点となっている。ニュースパークでは、このNIEの取組を念頭に置き、学校教育との連携に力を入れている。

新学習指導要領総則には、小中学校、高等学校全てに情報活用能力育成のため新聞の活用を図ることが明記されている。これは、学校教育の全教科において新聞などのメディア活用が重視されているということである。また、経済協力開発機構(OECD)の「生徒の学習到達度調査(PISA)」によると、子どもの総合読解力と新聞の閲読頻度に相関関係があり、新聞閲読頻度が高いほど総合読解力の得点が高いという傾向が明らかになった。これらのことからNIEは、資質・能力の三要素「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の育成に貢献することが期待できる。しかし、これまでこのNIEの有用性に注目してきたものの、学校図書館教育や授業において、実際にはどのようにして新聞を活用できるのか分からなかった。今回の研究では、NIEに関わる知識や技能を習得してきたため、今後の教育活動において実践していきたい。

(2) 研修会の実際

① 講義 「意外と知らない新聞の話！学校図書館で新聞をどう使う？」

講師 村山正子氏(東京学芸大非常勤講師 全国S L A学校図書館スーパーバイザー)

ア 新聞活用の意義と特質

探究学習では、多種多様な情報を収集し、その情報資料の特質をとらえ、比較しながら読み解いていく学習過程が大切である。新聞は、図書資料のように時間をかけて編集されるわけではないが、今起きている社会事象を反映できる。また、日々刻々移り変わる社会の様子をさまざまな方面からうかがえる一覧性がある。

イ 活用事例

過去の新聞からその時代の雰囲気をつかむ、時間を追って経過を読む、複数の新聞で比較読みをする、記事をスクラップして情報ファイルとして保管する、コラム比較で討論する、写真を見て感想や見出しをつけるなどの活用ができる。多様なメディア活用は主体的な思考・判断を養う土台となる。新聞にも新聞社や地方ごとにさまざまな違いがあるのでその比較や図書資料、雑誌、辞書等で調べながらの新聞活用、または学校図書館と新聞社など他機関とが連携することで学習に更に広がりや深みをもたせることができる。

② ニュースパーク見学

解説を受けながら館内を見学した。日本の新聞の歴史と現代の両面から情報社会の姿と新聞・ジャーナリズムの役割について学ぶことができた。また、学校などに貸し出している「新博キット」の活用を学び、NIEの可能性について知見を得た。



新聞で遊べる小部屋

③ ワークショップ 「学校図書館・授業での新聞活用」

講師 守屋明美氏

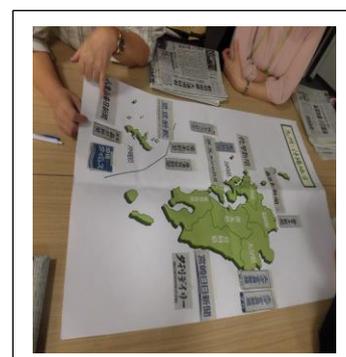
(大和市教育委員会指導室学校図書館スーパーバイザー 神奈川県NIEアドバイザー)

ア 学校図書館ができること

学校現場での「新博キット」活用例、ニュースパークと教育連携活動、学校図書館での教育活動の貢献について学んだ。各学校での学校図書館教育や授業でのメディア活用について実践や課題についても話し合い、意見交換をした。環境や予算の関係でできることには限りがあるが、学校図書館が自ら学ぶ力や豊かな心を育てる大きな可能性、使命があることを再確認することができた。

イ 新聞活用からできること、授業づくりへのアイデア

グループに分かれて、くじびきで当たった地方の新聞を集め、その地方にはいくつの新聞社があるのか、社名を切り抜き、各地図にはっていった。また、複数紙を比較して、その新聞社の新聞にはどのような特徴があるのか、その地方から見られる特徴は何なのかについてグループで新聞を読み合い、気付いたことを発表した。グループで完成した地図やスポーツ紙の切り抜きは会場の壁面に貼り、全体で共有した。みんなで読むという経験は新鮮で楽しいものであったが、それだけでなくみんなで複数の新聞を読むことで、様々な着眼点から多くの発見が生まれた。



授業づくりの様子

4 感想

今回の研究を通して、情報メディアについて考えを深めた。私達は、情報の渦にのまれぬように情報と付き合い、その情報の受信・発信の方法や姿勢について考え続けることが大切だと思った。今後の教育現場においても、正解への追求だけでなくこれまでの学びや経験と多様な情報から正解がないものを考えたり、新たな見方や発見、可能性を見出したりしていく主体的で探究的な学びが求められている。生徒にそうした学びをさせるため、新聞をはじめとした情報メディアを活用しながら授業を実践していきたい。